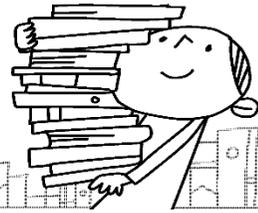


# みんなでつながる わ!



公開授業への取り組み、またご協力ありがとうございました。どの学年も学習内容は違っても、「子どもたちが言葉でつながる授業づくり ～ききあい伝えあう楽しさを通して～」という研究テーマや児童に寄り添った授業であったと感じています。数回に渡って、各学年の公開内容について紹介していきます。

4年生は、説明文「風船でうちゅうへ」を読んで興味を持ったことを中心に要約し、その文章を活かして、紹介文を書く学習をしました。

きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう  
「風船でうちゅうへ」4年生

## 本時の目標

- ・進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、文章を要約して書くようにしている。(学)
- ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などにちがいがあること気づいている。(思C(1)カ)

## 本時の流れ(本時8/9)

- ① 単元のゴールを確認する。  
前時に記入したワークシートを交流。
- ② 本時のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。

交流を通して、必要な文章や言葉を明らかにして、要約した文章を書こう。

- ③ 興味を持った、大切だと思ったところについて話し合う。
- ④ 話し合ったことをもとに、要約する。
- ⑤ 本時の学習をふり返る。  
書けた要約の紹介



教師のモデル動画では、「いっぱい引きすぎて迷ってる、一緒に考えてくれる?」「私もそこ引いたわ。」など、一緒に考えたり、比べたりして、思考を深められるよう構成されていました。

## ペア交流



交流を観察する際、「Aさんはとても聞き上手。うなずきがあったから、Bさんはとても話しやすかったみたいだよ。」とモデルになる子どもを紹介し、次の話し合いへと繋げていました。

交流前に、もう一度、自分が必要だと思う言葉や文章を確認させ、なぜそうなのか、なぜそこを選んだのか、理由をはっきりもつよう、助言していました。



大切だと思った文を指さし、一緒に読んで確認しています。



## 要約した文章を書く



交流を通して、自分が必要だと思うところを明らかにし、要約しています。





【板書】

～授業者から～  
 まず、単元のゴールを指導者が明確にする必要があります。次に、ゴールに向けてつきたい力を整理し単元計画を練りました。最後に、話し合いも含めて学習活動に必然性があるかを考えます。単元のゴール（成果物）を指導者が作って見せることで、児童もやってみようという気持ちが出ていました。何よりうれしかったことは、すべての児童が、積極的に交流し、紹介文を完成させたことです。また、並行読書も児童の興味を広げることに有効でした。

できあがった作品の一例  
 自分の興味を持ったところに着目して要約し、それについて自分の思いや考えを述べた紹介文となっています。

【研究協議より】

1. 個の思考を可視化し、対話の「拠点」を作る工夫
  - ～話し合いのハードルが下がる手立て・しかけ～
  - ワークシートの活用： 子どもの視点が可視化され、教員側も個々のつまづきや思考の差を把握しやすくなった。
  - キーワードの抽出・線引き： 教科書・資料などから「どこに注目したか」という根拠を明確にすることで、話し合いの質が向上した。特に、必要な言葉の書き出しがピンポイントに要約していくうえで良い。
2. 「ズレ」や「問い」を生み出す仕掛け
  - 情報共有で終わらせず、深い対話へ導くためのポイント
  - ニュアンスの差に注目させる： 一人ひとりの言葉選びの「ズレ」が面白い。なぜその言葉を選んだのかを交流させたかった。
  - 目的意識の明確化： 「書くために交流する」など、対話のゴールをはっきりさせた。
3. 深化させるための今後の課題
  - 「あーなるほど」という受容で終わらせず、思考を広げるための手立てが必要
  - 「問い」のモデル提示： 「なぜそう思ったのか？」「なぜそこを選んだのか？」といった、相手の思考の根拠を掘り下げる質問の仕方をモデル動画にする。
  - ことばの宝箱の活用： 語彙を豊かにすることで、より精緻な対話を目指す。
  - 日常的なコミュニケーションで素地づくりをする。  
 (授業内だけでなく、日常生活から対話のハードルを下げていく環境づくり)
  - 「広げる質問」を促すための、教室掲示をする。

